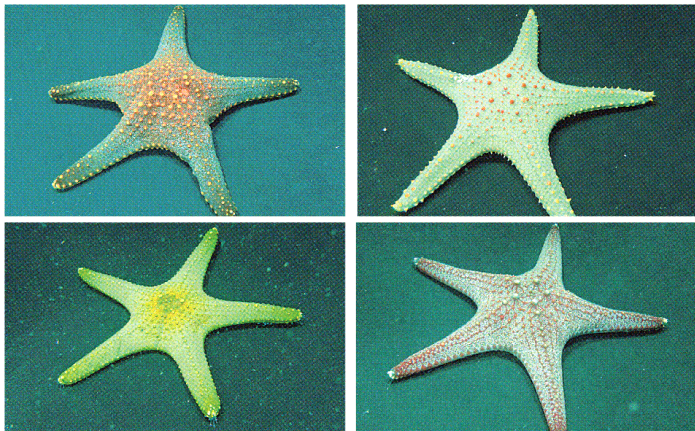


写真はすべてコンピュータ加工。黄や赤、茶など個体によって色が違う



ヒトデの体の名称



コブヒトデモドキ

学名 *Pentaceraster alveolatus*

生息域 フィリピン、インドネシア、メラネシア、ニューカレドニア、西オーストラリアなどの海。日本では、一年を通して鹿児島湾内でよく見られ、砂泥地や岩場などいたるところにいる。このほか、国内で見られるのは、屋久島や沖縄本島の海で、水深1~25mの場所など。和歌山県の手賀池でも見られるが、冬には低水温のため死ぬ。

特徴 体は硬くて頑丈。星形の出っ張っている「腕」が長い。コブヒトデとくらべると体表のコブは小さく、数も少ない。

鹿児島湾だけ多く生息

かごしま水族館の1階にあるタッチプールは、生き物にじかに触れられるため、子どもたちに好評のコーナーです。中でも、その大ききから、ひとときわ目を引き人気なのが

コブヒトデモドキです。体の中心から星形の飛び出た部分の先端までの長さ「半径」は、大きいもので20cm。ヒトデの中でもかなり大型の部類に入ります。

特徴的なのは大きさだけではありません。緑、黄、茶、赤など、一匹一匹がとも個性的な体色をしています。また、体の模様を拡大すると、とても複雑で美しく、魅力があります。好物は生きているウニです。ヒトデの仲間では普通なのですが、食べ方は衝撃的

です。ウニの上に乗りかかって口から胃袋を出して包みこみドロドロに溶かして食べてしまうのです。食後に残るのは、散らばった無数のウニのトゲと、消化されて身がなくなった白い殻だけです。タッチプールでも同居しているウニを食べてしまわないよう、コブヒトデモドキは夜の間にだけ隔離します。

桜島や水族館近くの下海に潜ると、小一時間で多いときには20匹以上のコブヒトデモドキを見つかることがあります。ところが鹿児島湾から一歩外へ出ると、見かけることはほとんどありません。鹿児島湾内でも、なぜか鹿児島湾にだけ多いのが特徴です。そういった意味では、鹿児島湾を代表する生き物の一つと言えるでしょう。(展示課 学習交流係・広瀬純)

おもしろ生き物図鑑

かごしま水族館から